

レポーター：学芸員の赤坂さんです。よろしくお願いします。

学芸員：よろしくお願いします。

レポーター：こちらはこういった模型なんですか。

学芸員：はい、福岡市の西区にあります鋤崎古墳の石室の模型です。

レポーター：鋤崎古墳。

学芸員：はい。

レポーター：鋤崎古墳ってどこにあるんですか。

学芸員：えーとですね。えー、今宿バイパスから見える、あの今宿平野に山を越えて入るすぐのところにある大きな前方後円墳です。

レポーター：どれくらいの大きさなんですか。

学芸員：全長 67 メートルといわれています。

レポーター：67 メートルって結構大きな古墳ですよ。

学芸員：そうですね。この時期の福岡ではかなり大きな方の前方後円墳になります。

レポーター：この模型は実際古墳のどのあたりを表しているものなんですか。

学芸員：えっと、前方後円墳のまわり、後円部の真ん中にあります石室を実物大で復元したものです。

レポーター：石室ってこういったものなんですか。

学芸員：石室は古墳に人を埋蔵するところなんですけれども、こちらは横穴式石室といって、日本で一番古い横穴式石室だといわれています。

レポーター：こういった特徴があるんですか。

学芸員：はい、えーと三角形の入り口があって、そこから中に入るようになっています。一番奥に石の棺があって、奥の方に粘土で作った素焼きの棺があって、手前の何もないところは木製の棺があったという風にいわれています。

レポーター：んー、今は何もないですけど、実際は木製のお墓というか棺があったんですね。

学芸員：そうですね。で、都合 3 人の方がここに埋葬されていたという風に考えられます。

レポーター：竪穴式から横穴式に変わって、その何かその特徴みたいなものってあるんですか。

学芸員：それまでの竪穴式石室では基本的に一人を埋葬したらそれで完全に封印してしまうんですけども、横穴式石室は追葬といってあそこの入り口からまた何人も人を後から葬ることができるというような新しいタイプの石室になっています。

レポーター：そうなんですか。この模型を見るにあたって、ここは注目してほしいみたいなどころはあるんですか。

学芸員：ちょっと目立たないですけど、実は壁にですね、ちょっと突起状の石が出て

おりまして、あそこによく見て頂くと剣がかかっているのがわかるかと思います。

レポーター：ほんとですね。釣竿をかけるようにして。

学芸員：そうですね。

レポーター：剣がかかってありますね。

学芸員：で、こういう風に、おそらくは奥の剣は手前の石の方のもので、向こうの剣は手前の焼き物の方のものだと思います。

レポーター：や、結構権力のある方が埋葬されているっていうのもそれで見ることができますよね。

学芸員：そうですね。えっとまあ、中国製の鏡ですとか刀ですとか。まあ石室自体も朝鮮半島から来た最新ものだといわれています。

レポーター：そうなんですね。ありがとうございました。

学芸員：ありがとうございました。